

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第80回放送の概要 (2014年5月24日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なか (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

かりん (妹尾優香)
アコ (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
いっちゃん (一ノ瀬悟)

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) 神戸で乗って一番楽しいタクシーそれはペリーヌタクシーです。優しさと安全・安心を乗せて走ります。観光・ゼミ・研修・福祉輸送等乗れば心温まり、思わず笑みが浮かぶ、心結び、出会いを作るタクシーです。本日は誇りと信頼の良質なサービスを提供するペリーヌタクシー様 (電話078-521-0046) の御協力を頂きました。

1. ゲストコーナー(1): N-BUN 北川温子さん、清水百世さん、妹尾優香さん

ボランティアグループN-BUNは、メンバーが105名、全員がNHK大阪文化センターのボランティアのための朗読講座の修了生で、講師の林曠子先生がN-BUNの代表となり結成されたグループです。活動内容は視覚障害者のための音訳をしています。朗読は小説、絵本などをプロの方が臨場感豊かに話す、音訳は目の見えない方に、文章、絵、図、表など書いてある全てを音に変えて届けるものです。感情をいれることは聞き手には内容が素直に伝わりにくくなるので、音訳は重きを置かない。音訳は見てわかる事を、意味が伝わるように音に変える必要があり難しい。

N-BUNの最も力を入れている活動は、月刊誌「オール読物」の音訳です。400頁の雑誌で音訳すると30時間になり、これを毎月利用者に届けている。このためメンバー50名程が、読み手、校正者、編集者になり作成している。また活動の一つとして、肥後橋にある社会福祉法人日本ライトハウス(視覚障害者に対する図書館があり、自立できるよう生活支援、盲導犬の育成などを提供している)に出向き、対面朗読をしている。ライトハウスの創立者は岩橋武夫さんと、ヘレンケラーさんと対談したり、視覚障害者が活動出来なかった時代に活動された人です。最近では網膜色素変性症などによる中途失明の方も多く、ライトハウスの音訳の利用者の増加に繋がっている。盲学校では点字を習うが、中途失明した場合は点字の習得が非常に難しい。

音訳ボランティアをするようになったのは、北川さんはもともと声を出して読むのが好きで、子供に絵本を読んだりしていた。朗読より何か人に役にたてる事として、仕事を辞めてから視覚障害者のための音訳教室に通った。清水さんの場合、元教師で途中15年ほど家庭に戻り、その後第2次ベビーブームが始まった頃、大学の同窓会の名簿から声がかかり、非常勤で勤め出した。同窓会に朗読グループがあり、夏期講習の時講師の林曠子先生に出会い、先生について勉強しようと思った。妹尾さんの場合、高校では放送委員会に入るなど声を出すのが好きであった。本を読む場合も目で追うだけでなく声を出す方が頭に入った。40歳の頃地元元のボランティアグループに行った時、初めて林曠子先生に出会った。その後10年程経って、NHKの視覚障害者のための音訳教室に通った。NHKの講座は半年ごとにク

ラスのレベルが初級、中級、上級、専科と上がり、2年間かけて終了する。まとまったボランティア活動をするため、終了した人の4グループが集まり、N-BUNを結成した。

2. ミュージック：人生の扉（竹内まりや）

竹内まりやさん作詞作曲、山下達郎さん編曲の曲で、歌詞には英語で書かれた部分があり、20代から90代まで、それぞれの世代で人生は素晴らしいという事を歌いあげた曲で、竹内さんが30周年を記念して発表したものです。

3. ゲストコーナ（2）：

NHKの講座では、音訳の仕方ではなくただ読むだけの勉強をした。終了後ボランティア活動を始めに際し必要な事を学ぶ。耳に聞いただけでは文の内容が正確に伝わらない時にスッと補足をし、瞬時に理解できる方法を学ぶ。

漢字の補足の講習では、同音異義語や著者の造語、音読みと訓読みで意味が違う場合などを学ぶ。

（例1）学校を中退し、頼み込んで弟子にしてもらった。食事と住居は確保してもらったが、無給（きゅうりょうなし）のうえ無休（やすみなし）で3年間働いた。

（例2）子どもたちには、数学を勉強するのに小さい頃より「数が苦（かすがくるしい）より「数楽（かすがたのしい）を身につけてほしい。

（例3）NHKテレビテキスト「MHK短歌」を、毎月ライトハウスの視覚障害者の短歌のグループ十数人に、ほぼ全部音訳して届けている。この本の巻頭秀歌は、短歌のイメージに合うカラー写真が5頁あり、その両側に1首ずつの短歌が掲載されている。後ろの頁に解説が掲載されている。



【4月号の満開の写真の場合は次のように音訳します。】

写真説明。しだれ桜が満開の山寺の光景です。傾きだした西日に薄紫の満開のしだれ桜が浮かびあがっており、小さな鐘つき堂が見えます。写真終わり。永福門院 風雅和歌集巻十六

かくしてぞ昨日も暮れし山の端の入日ののちに鐘のこゑごゑ

【次に巻頭秀歌の解説の頁に掲載の以下の文を読む】

歌意はこのようにして昨日も暮れた。そして今日も暮れた。山の稜線に夕日が沈んだあと、あちらこちらの寺からいりあいの鐘の音が響きわたる。今日も暮れたという普通のいいかたをせず、昨日

も暮れた、と言うことで、昨日も今日もまた明日も・・・という永続感が漂う。一首全体に無常感がにじむ歌。

【もう一度歌を読む】

かくしてそ昨日も暮れし山の端の入日ののちに鐘のこゑごゑ

(例4) 東日本大震災をテーマにした絵本の音訳の場合です。

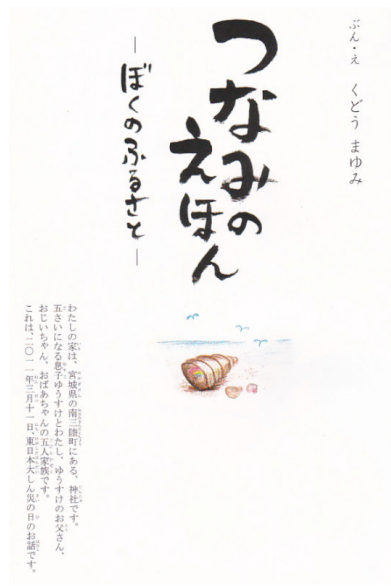
【1頁】 つなみのえほんーぼくのふるさとー

私の家は、宮城県の南三陸町にある、神社です。五さいになる息子ゆうすけとわたし、ゆうすけのお父さん、おじいちゃん、おばあちゃんの五人家族です。これは2011年3月11日、東日本大しん災の日のお話です。

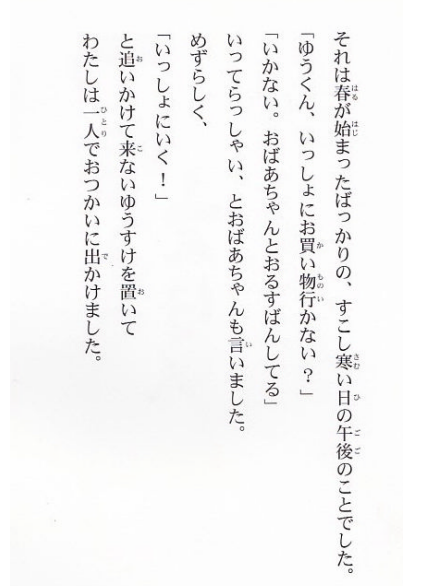
【2頁】 それは春が始まったばかりの、すこし寒い日の午後の事でした。

「ゆうくん、いっしょにお買い物行かない？」
「いかない。おばあちゃんとおるすばんしてる」
いってらっしゃい、とおばあちゃんも言いました。
めずらしく、
「いっしょにいく！」
と追いかけて来ないゆうすけを置いて
わたしは一人でおつかいに出かけました。

【3頁】 絵があります。説明。お母さんの回想の絵です。部屋の中、こたつにおばあちゃんと男の子が座っています。柱にかかっている時計は2時を指しています。窓の外は明るい青空です。



【1頁】



【2頁】



【3頁】

オール読物など多くの方が関与することで作られる音訳は、読み手もレベルの違う人がいるので、原稿の割り振りは、全員の實力を知っている代表の林先生が行い、読んだものを互いに校正し、自分の担当部分のみ自己編集し、編集者に送る。何人かの編集者が集まり 400 頁の本を一枚のCDに仕上げる。

オール読物の他、週刊新潮、ゴルゴ 13、テルマ・エロマエの漫画を音訳をしている。N-BUN は一人の個人に音訳は出来るが、著作権の問題があり多数の人には出来ないの、日本ライトハウスの名前でインターネットで配信している。その他プライベートに頼まれた本を読んでいる。漫画はセリフが少なく絵がメインの為、音訳者の感性に影響されると思われるので、漫画の場合通常主観を入れませんが、あえて主観を入れると伝わる場合がある。コマが多いのでテンポ感も大事である。読み手の資質が変わってくる。音訳者には得意分野があるので得意分野を考慮して人選している。

個人の依頼で行った音訳で時間のかかったのは、障害者の高校生 2 年生から、英語 2 冊、国語現代文と古典、世界史、生物、数学Ⅰ、Ⅱの音訳依頼があった事である。教科書は 4 月に生徒の手に渡る必要があるが、教科書は 1 月頃でないとう入手出来ず、このため 5 月でも音訳は全ては完成しておらず、出来た所から届けている状況。短期間に間違いなく音訳するため、音訳者は担当科目の経験者をお願いしている。

対面音訳の場合は、利用者が本や資料を持参するので何が当たるかわからない。苦手な音訳を依頼された例としては、競馬雑誌があった。独特の言葉、読み方があり、読めない時があると依頼者が教えてくれる事がある。新聞を読んでいた時、人名と年齢がカッコ書きで書いてあり、50 歳と読むと、歳は書いてあるかと指摘され、書いてないものは読むなと言われた事がある。

音訳ボランティアは時間がかかり、手間もかかり多くの苦労がある。しかし苦労と思わず出来る理由は、清水さんは好きだから出来る、慣れない時はアクセント辞典をひくなどして続けていると、手ごたえを感じ楽しくなる。妹尾さんは声を出すのが基本的に好きで、人の役に立っている事で満足している。また自分が選んだものではない本を読む面白さがある。建築関係の問題集を読んだ時はびっくりした。ニーチェの本を読んだ時はタイトルから読めなかった。北川さんは音訳前に多くの調べ物をするが、今頃になってと思うほど勉強をしている。

音訳ボランティアをしている人は、人との繋がりが広がっていく楽しさを感じている。清水さんが短歌を読んでいた時、テープをハンセン病療養所に送ってほしいと言われた事がある。10 年ほど継続し療養所を訪問した事もある。触れ合うことのなかった人に出会えた喜びがある。

N-BUNへのお問い合わせ：n_bun1982@yahoo.co.jp

HP：グループ N-BUN <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~onyaku-1982/>

ブログ：グループ N-BUN <http://onyaku-1982.at.webry.info/>

4. こぼれた話、こぼれなかった話：総合科学類型から未来創造コースへ（兵庫高校）

- (1) 私たちの母校、県立兵庫高校に設けられていました普通科の特色類型が見直されて、今年度から未来創造コースに昇格されました。普通科のうち40名が総合科学類型に区分されていたのが、未来創造コースの1学級が用意されました。
- (2) このコースの目標は、社会の現状を知り、急激に変化するこれからの世界で自らの力で未来を創造しようとする意欲と、より良い地域づくりや社会の発展に貢献しようとする志を持つ生徒を育成することです。すなわち、①深い専門性と幅広い教養を持つ生徒、②既知の解答の存在しない問題に対し、与えられた条件の中で論理的かつ柔軟に考え、解決策や対応策を見出そうとする生徒、③コミュニケーション能力とリーダーシップを持つ生徒、を育成しようとするものです。
- (3) 特色ある教育活動が行われます。①専門家による講義やワークショップ、地域や大学、研究機関等でのフィールドワークや実習、発表、②研究成果や実践成果の英語によるプレゼンテーション、③第1学年では、地域でのフィールドワークに基づくまちづくりの政策提言と自然科学分野の探究活動を実施、④第2学年から、国際問題などの社会科学系の探究活動又は大学の施設を活用した自然科学系の探究活動のいずれかを選択、することになります。
- (4) 特色ある学校設定科目としては、「創造基礎Ⅰ」「創造基礎Ⅱ」「創造応用ⅠL」「創造応用ⅡL」「創造応用ⅠS」「創造応用ⅡS」。また、昨年度(25)から文部科学省の教育課程特例校の指定を受けており、「創造基礎Ⅰ」および「創造基礎Ⅱ」の履修をもって必須の履修科目「現代社会」の履修に代替してくれます。
- (5) 募集方法などは、新入生から適用されましたが、コースの募集定員の全部が推薦入学となっています。通学区域は、現在と同じ神戸第二学区のままです。ちなみに、来年度からは新しい学区再編が行われることになっています。神戸市全域と芦屋市、淡路島の3市が新学区となります。とにかく、私たちの受験一辺倒の普通科だけだったのに比べて、すごい授業内容で、すごい生徒を育成しようとしています。こんな生徒たちなら、どんな大学も社会も必要としています。必ずや、社会に出てリーダーシップのとれる優秀な人材になってくれることでしょう。

5. 地域瓦版

第35回くつつこまつり in 鉄人広場が、6月1日（日）9時～16時（雨天決行）、オープニングセレモニーは10時から開催されます。

兵庫高校の同窓会、武陽会のイベント「ホームカミングデー2014」が6月7日（土）9時30分～15時、兵庫高校武陽・ゆ〜かり館で開催されます。昨年放送された島田叡沖縄県知事のTVドラマ「生きる」の上映と、担当プロデューサーの講演があります。午後はOB吹奏楽団のコンサート、落語家になった卒業生の落語会があります。



ホームカミング・ディ

HomeComing Day 2014

2014年
6月7日(土)

開催時間 / 9時30分～15時(予定)

会場 /
武陽・ゆ〜かり館
兵庫県立兵庫高等学校内(正門すぐ)

◆午後第一部 / 9時45分～11時15分
上映会
TBS放送ドラマ
「生きる」
～戦場に残した伝言～

◆午後第二部 / 11時20分～12時00分
特別講演 / 藤原康延
TBS「生きる」制作プロデューサー / 64歳

◆午後第一部 / 12時30分～13時30分
兵庫高校OB吹奏楽団コンサート

◆午後第二部 / 13時45分～14時45分
「武陽落語会」

三門楼 桂 文之助
落語家 / 62歳

桂 まん我
落語家 / 77歳

◆当日は「校内見学ツアー」も実施予定です。

武陽会
神戸市長田区中町1丁目1番1号
武陽会事務局 / office@buyokai.org
www.buyokai.org

6. 来週のゲスト

来週第5週も放送があります。ゲストは、駒林神社禰宜の中山直紀さんにお越し頂きます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>